

かしも通信

April 2025



かしも通信
SINCE 2005
Vol. 240
monthly issue

The Final Issue

〔特集〕 かしも通信最終号

徳不孤 必有隣／かしも通信 結びの章

徳不孤 必有隣 ― かしも通信 結びの章 ―

徳は孤ならず、必ず隣あり／志を持つ者は決して孤立せず、共感する仲間がいる。
「かしも通信」の歩みに通じる言葉です

かしも通信編集長 秦雅文

2005 かしも通信は「明るく楽しく
お気楽ニュース」をコンセプト

に二〇〇五年に創刊しました。第三号には二十年に二度行われる伊勢神宮式年遷宮のための裏木曾御用材伐採式のが載っています。あれから二十年たったので、今年の六月五日に行事が行われるそうです。

二〇〇五年十月一日の朝日新聞のコラム「天声人語」にかしも通信の事が載った時には、瀬戸内海に浮かぶ小さな二つの島からメールが送られてきました。そこも小さな二つの町が福山市に合併し、自治会を設立して広報誌を発行しているので参考にかしも通信のバックナンバーを送ってほしいと言ったことでした。海に囲まれた島と山に囲まれた加子母。これも何かの縁なのと思いつぐに送ったのですが、はたして参考になったかは不明です。

2006 二〇〇六年十一号の特集「小
秀山がドッカーン」では小秀

山の溶岩ドームの記事を載せました。

之さんの「今やることに心を込めなきゃいかんのです」というインタビュー記事が載っています。加子母の人達は、表に出さないつながらりがある。というのが言い得ています。和之さんには昨年明治座三〇周年の記念誌「明治座」でもお話を伺いましたが、節目で登場している方です。

この年、かしも通信は「加子母人」を発行しています。聞き書きで加子母村に生きてきた人たちの人生を、一冊にまとめました。

2012 二〇二二年には、「加子母人2」
を発行しました。私も編集の

みならずインタビューも担当しました。この頃、私の娘が全中に出場するようになったことで、かしも通信にはスキーマの記事も度々登場し、全国大会で活躍するようになるとさらにヒートアップしました。加子母中学校の最後はジュニアオリンピック優勝で締めくくり、勢いに乗りました。加子母の方達にもたくさん応援していただいたおかげです。

ただ、アクシデントもつきものでその後は海外国内を合わせて二回もドクターヘリで運ばれていますし、病院へ運ばれるなんていうのは何回あったかわからないくらいです。いつも大事には至らなかったのが幸いでしたが、話題には事欠かない競技生活でした。何よりアルペンスキーを通

その場所にまつわる言い伝えも載っていて「この崖へ入ると急に霧が立ち込めてきて、翼長2メートルほどのホヤドリという大きな鳥が舞ってくる。」というのが印象的でワクワクしました。

この号には人の森で元村長の粥川 眞策さんの「おおかみ」も載っていて昔は加子母にもオオカミがいたという話が興味深いです。当時、眞策さんにツチノコも昔はいたという話を聞いた事を思い出しました。オオカミもツチノコも眞策さんもなくなくなてしまいましたが思い出だけは残っています。

二〇〇六年の十七号の「中村勘三郎アタックプロジェクト」は、かしも通信最大のイベントと言っているものでした。当時取材を申し込んでも断られてしまい途方に暮れていた時に、小田孝治さんに出会えたことで事態は急展開し、中村勘三郎さんに三回にわたって計四十五分もインタビューすることができました。最後まで諦めなかった、かしも通信は二気

して視野が広がったことが素敵だったのでそれを伝えたかったです。

2014 二〇二四年の百十五号で明治
座耐震改修工事について触れ
ています。その後は工事実況を毎号
伝えていました。

2015 二〇二五年に十年を過ぎたこ
とでそれまでの記事を特別編
集したタブロイド版「里の音」と「里
の地芝居」を発行しています。同年
に工事が完了し柿落としが行われる
頃には明治座に関する記事は特に
多くなりました。屋根の板が新しく、
明治座が金髪の爺さんのように見え
たのも今や懐かしい景色です。

2016 二〇二六年には明治座でアー
トリエンナレを開催しま
したが運営が大変で自分のことが
思うように出来なかったのが心残り
でしたが、多くの人の協力を得て実
現できたことは、その後に役立つも
のになりました。

2017 二〇二七年に中村勘九郎・七
之助が明治座で公演を行い
明治座に観客が押し寄せました。

2018 続く二〇二八年には加子母歌
舞伎保存会のフランス公演が
決まると、歌舞伎の記事が続きまし

に勢いづくとともに、勘三郎さんの人柄に惹きつけられました。夢中で走り回った事は今でも忘れられない貴重な時間でした。

2007 二〇〇七年の三十二号では明
治座クラシックコンサートが始

まって十年目になって初めて東京芸術大学名誉教授の田中千香士さんへのインタビューをしています。この時、お話を聞けたおかげでその後の明治座クラシックコンサートへの関わり方が変わる大事な取材となりました。思い切って行動することの重要さを感じました。

2009 二〇〇九年の五十四号の小田
孝治さんのエッセイ「鳥の目、

虫の目」を最後に小田さんが病に倒れてしまいます。中村勘三郎のインタビュー以来、私たちと同じ目線で色々と相談にのってくれ、毎月のエッセイなど、かしも通信を応援していただききました。坂東秀調さんにインタビューをするために建て替わる前

た。海外公演がうまく行ったことで更に注目度も上がり、編集長は主役の俊寛を演じたこともあって調子に乗ってしまいます。

加子母歌舞伎にとっても、大きな変化があり、重要な年でした。歌舞伎の記事が多くなってしまう、他の話題を求めている人には申し訳ないですが、編集長の頭の中は歌舞伎だらけだったのです！

2020 二〇二〇年に入るとコロナ禍
によって全てのものが中止にな
ったり停滞してしまいました。その
間もかしも通信は動き続けますが、
百八十五号ではナメクジ祭り中止の
知らせを聞いたジャーナリストの足
立則夫さんから「ナメクジの言い分、
ナメクジの縄張り争い」というタイト
ルで寄稿していただいています。まさ
しく助け舟でした。

2023 二〇二三年にはかしも通信メ
ンバーの善田奈緒さんが富山
県朝日町の町議会議員に立候補し
見事当選。ヤル気を刺激する出来
事でした。

また同年の明治座クラシックコンサートに、かしも通信の原ゆうみさんが、グスタフ・マーラーの演奏にピアノとしてレポアンと初共演。
加子母の人の参加は渡辺敏晴さん
に次いで二人目でした。

の歌舞伎座へ一緒に行ったことがあり

ます。その時に歌舞伎座の事務所の人たちが小田さんから話を聞いていて、かしも通信のことを皆さんよく知っていたのには驚きました。その帰りに築地で寿司をご馳走になりながら次のアイデアを話していたのですが、そのアイデアを果たせないままになってしまったのは残念でなりません。

その時に、かしも通信は絶対止めちゃいけないとも言われたのです。

小田さんがなぜ止めちゃいけないと言ったのかがわかるまでは止めたいけないと、それから十五年言いつけを守りました。

2010 二〇一〇年にコウノトリのコー
ナーが始まっています。この頃
から子供の減少が話題に上がってい
ますが、まだのんびりしたものだった
ようです。

この年の次号では農林水産大臣賞を受賞された角領の梅田良作・寿美夫妻お祝いの会に触れ、熊澤和

本間希代子さんが、第三回安城市新美南吉絵本大賞で大賞を受賞するなど、かしも通信メンバーの個々の活躍が目立った年でした。

2024 続く二〇二四年も、かしも通
信の田中浩子さんが加子母
剣友会でブルターニュへ行ったりと、
グローバルに活動しました。

三三〇周年を迎える明治座には多くの人の思いが歴史となって詰まっています。

しかし形として伝えるものが少ないと思っただけです。

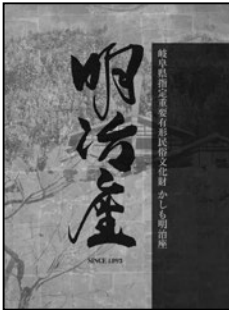
そこで、第五〇回加子母歌舞伎公演に合わせて「明治座」A4版八〇ページを発行しました。

明治座に関わった方のインタビューや、過去のかしも通信の抜粋記事を、年表と合わせて冊子にまとめました。ご覧になりたい方はNPOかしもむらに問い合わせてください。図書館にもありますよ。

2025 二〇二五年一月に水無神社で
二十歳の集いが開催されまし
た。今年二十歳を迎えたのは三十二名。今と比べると子どもが多かったです。加子母村最後の赤ちゃんもこのクラスにいます。

かしも通信も二〇歳。今まで色々ありました。

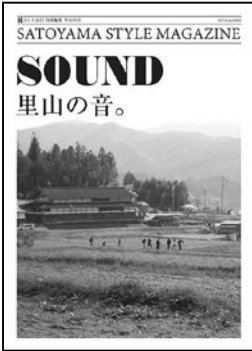
豊かさを求めて次の「章」へ。



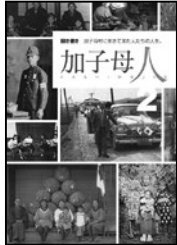
明治座 2025年発行



里山の地芝居 2015年発行



里山の音 2015年発行



加子母人2 2012年発行



加子母人 2010年発行

べいばい言つてても変わらない

かしも通信富山特派員
富山県朝日町議会議員

善田奈緒

加子母を離れて十三年、節目節目で加子母での出来事がフラッシュバックする。それが故郷、心のよりどころというものなのかもしれない。私は大人になってから加子母という故郷ができた。

加子母との出会い

私の子どものたちの名前にはみな「樹」の文字が入っている。例えば長女は「椿」。

加子母に移住した理由も単純で、「樹」が好きだったから。

初めて粥川眞策元村長に会ったときのことを忘れられない。「どの木にも性格がある。素直な木、ひねくれた木。山での性格が柱になったときにもそのまま出るから、それを見極めて使わないと、ひねくれた家になってしまう。」

スーツにヒールで挑んだ面談。しかし、「山に行けるか？ よし、行こう！」といきなり山へ連れて行かれた衝撃は今も鮮明だ。大学の森林科学科で樹木を学んではいたが、樹種は分かっても「性格」を見抜くことはできない。本当に木と向き合い、付き合っていることを知り、カルチャーショックを受けた。だからこそ、絶対にこ

こで暮らしたいと思い、村長宛に熱烈なラブレターを書いた。

人を育てる

加子母での十年間は私の人生観を大きく変えたし、離れた今も「育ててもらった加子母に恥ずかしいことはできない」という思いが根底にある。

かしも通信のメンバーとしては大した働きはできなかったが、加子母村がなくなるという時に立ち上がった秦雅文さん、原ゆうみさん、本間希代子さんの芸術家三人。移住歴のまだ浅かった私にはとてもまぶしくて、仲間に入れてもらえたのが本当に嬉しかった。

私が加子母を離れてから、かしも通信のメンバーは新しく五人も増え、木匠塾卒業生が二地域居住をしたり、地域おこし協力隊として加子母で暮らしていたりする。正直、少しやきもちを焼いてしまう。また粥川元村長の言葉を思い出す。「滞った水は腐るのと同じ、人も出たり入ったり流れていないと腐っていく。」加子母も少子高齢化や人口減少の危機に直面していると思うが、加子母を想うだけで涙が出る私のような

人は全国にたくさんいる。

来る者拒まず、加子母の子どもたちと同じように人を育ててくれる加子母。木を育てるのと同じように、すぐに結果を求めず長い目で見守る。この安心感は他にない。地方移住のキャッチフレーズで「人がいい」「人があたたかい」とはよく聞くが、加子母はそれを遥かに飛び越え、「樹齢百年の木々を育てるように人を育てる」という価値観が根底にある。

議員として地域づくりに関わる

良いことなのか悪いことなのか、後先を深く考えずにこれだ！と思うたら突き進む性格のまま四十五歳になった。加子母時代には、そのことでたくさん迷惑もおかけしました。ごめんなさい。でも、議員になろうと決意できたのも、加子母との出会いがあったから。つべこべ文句言うだけでなく、地域づくりを自分事にしたかった。自分が暮らす場所をより豊かにするには、一人ひとりが動かなければ何も変わらない、という加子母の人たちの姿を見てきたから。

そして議員になって思うのは、みんな勝手にハードルを上げすぎている、ということ。学歴や経験、人望

は確かに大事。でもそれだけでは本当の民意は反映されない。多様な人が必要だからこそ、議員は複数いる。同じような人ばかりでは、二方向に進まない。あぁ、こども粥川元村長の言葉が浮かんできた。「森の中には、いろんな木があって初めて成り立つ。みんな同じように育ってしまったら共倒れする。」

議員になって2年半。面白い。新たな気づきがたくさんあるし、やりがいがある。何より、想像以上に物事を変えられる！地域愛のある方、一つの選択肢として、絶賛おすすめです！

かしも通信、今までありがとう

編集長の秦さんに、歌舞伎デビューの記事で「善田奈緒（三〇）」とあって年齢を強調して書かれたことを思い出す。そういう小さなこだわり、狙った編集が大好きでした。過去のかしも通信がお手元にある方は、あちこちに散りばめられている編集長のこだわりをぜひ探してみて。新たな発見があるかも？！

かしも通信は休刊になるけれど、私の加子母愛は、まだまだ続く。

ジャーナリストの視点

かしも通信の価値

日本経済新聞 客員編集委員 足立則夫

足立則夫

1947年東京都青梅市生まれ。日本経済新聞 特別編集委員を経て2011年、定年退職。現在も客員編集委員として日曜版などに執筆している。

「something interesting(何か面白い)」「something new(何か新しい)」――情報を載せた媒体は、マスコミにしろ、ミニコミにしろ、そうした魅力がないと、あっという間に姿を消すことになります。

東京都武蔵野市の自宅に送っていただいていた『かしも通信』には毎号必ず目を通しました。なぜか。A4判8ページの巻頭から巻末までのどこかに必ず、加子母の「何か面白い」「何か新しい」エピソードが盛り込まれていたからです。

加子母という山村の地域情報紙であるこの媒体は、全面モノクロで地味な作りです。でも、目を通すと、登場する加子母の人やペットを介して、温かい空気がじんわりと読み手の心に伝わってきます。

そればかりではありません。水無神社での成人式や、明治座での加子母歌舞伎などの行事レポート、それにYさんの農作業コラムや編集長の編集後記などからは、今、加子母住民の足元で、どんな変化が起きているかも読み取れます。

驚くべきことは、この二十年間、質の高い地域情報紙を、毎月欠かさず、ボランティアの編集スタッフが無報酬で発行を重ねてきたことです。

愛読者からすると、この号が最終の紙面になるのは、とても残念なことです。いつかまた復刊されることを祈りつつ、長い間、編集に取り組んできたスタッフや、加子母の全戸に配布して来た区長さんから『かしも通信』を支えてきた人たちに、大きな拍手を送ります。

加子母の感化で冒険余生

日本農業新聞記者OB、きーず企画代表理事 永井考介

きょう、ぼくのカフェは休業日。小雨も降っている。いつもは賑やかだけど、今朝はスタッフもいない。こんな静かな日は、コーヒーを煎れて、1枚のCDをかける。加子母在住のピアニスト・原ゆうみさんが自作曲を弾くアルバム『心配ないわ』。上質な旋律の響きが心に沁み、しっとりと満たされる。そう、加子母の森にいるような感覚になる。

もう一人、加子母在住の画家・本間希代子さんの顔が思い浮かぶ。元気かな。CD『心配ないわ』のジャケットは、希代ちゃんが描いたもの。森の妖精っぽいや性はゆうみさんみたい。うちのカフェに掛かる可愛いカレンダーも希代ちゃん作。だから、ぼくの心はいつでも加子母に飛んでいける。

加子母を初めて訪れたのは2007年春。日本農業新聞の記者としての取材だった。年間ルポ「田園立国」の記事を書くため東京から出向いた。山あいの村に芸術家たちが移住し、田舎暮らしに溶け込んでいく。むらの歌を作曲。観光マップや特産品ラベルを巧みに描く。地歌舞伎の役者にだってなる。「かしも通信」も発行してしまう。むらの新しい息吹が面白くてたまらない。そうして、ぼくは加子母ファンになった。

7年半前、日本農業新聞社を60歳定年退職し、愛知県西尾市吉良町に帰郷した。空き家の実家を改装し、きーずハウス(カフェ、部屋貸し、宿泊)を開設。第二の人生はふるさと興しへ大冒険だ。加子母に感化されたからに他ならない。

鳥の目、虫の目

元産経新聞社 文化部編集委員 故 小田孝治

全国を旅しながら各地で見た物事や出逢った人とおしてジャーナリスト特有の鋭い視線でとらえた、連載エッセイ『鳥の目、虫の目』には、森と水のかかわりについての話題が繰り返し出てきた。地元にはわからない加子母へのメッセージである。「近づいて」さまざまな角度から物事を「複眼的」に見ることが「虫の目」。一度距離を取り直して、俯瞰的に全体を見回して見ることが「鳥の目」です。多角的に眺め、判断を下す大切さを伝えた。

加子母は木の文化が息づいている。明治座には加子母の樹木がふんだんに使われ、ビルの中におさまった大都会の劇場にはない温もりを与えている。音の響きもよく、歌舞伎だけでなくピアノやバイオリンなどのコンサートの響きも優しく奏でられる。明治座は、戦後の日本で切り捨てられてきた、かけがえのない木の文化がただよう文化遺産である。(2007年 no24より抜粋)

短歌俳句
川柳
俚謡正調

妻とあり子とあり家内平和あり
朝寒の庭にあらわや箒あと
酔いしれて我に心の二つあり
恋にもつれて丘越え野越え
蝶は気ままな身の果報

安江素水
細川紫雲
谷とをる
安江潔

Pet

わが家のPet!

万賀 安江ココ



わたしの名前はココ。
ハワイ語で虹って意味
があるの!大好きなのは
お散歩でかけこすると、
あったかい陽だまりでお昼寝すること!そして一番好きなのはクルマ
に乗ってドライブすること!みんなに撫でてもらうと嬉しくてハッピーになる
から、見かけたら声をかけて撫でてね!

りえ

Times

かしもっ子タイムズ 丹羽淳一

町村合併20周年を経て

平成17年2月13日に1市7町村の合併が行われて、今年で20周年だ。
中津川市加子母地区となり、最初の加子母総合事務所長となった三浦博行さんから当時の加子母の事を聞く機会があったのでここにま
とめたい。

平成17年合併直後、加子母住民が総合事務所長に向ける目は『加子母の総合事務所長』では無く『新しい村長』であったそう
だ。多くの人が中津川からやってきた『新しい村長』がどんな人かを見にきた。話を
して、どんな人か分かつとみんな納得して帰っていったようだ。役職ではなく、『人』を見定めようとする加子母住民の気質を感じるエ
ピソードだ。

平成17年は雪が多く降り、職員の貞蔵さんや正樹さんが総合事務所に積もった雪をブルドーザーで除雪する事を知りビックリしたそう
だ。様々な会議の後、飲み会という名の座談会となりそのままふれあいの館や民宿さかやに泊まった話や、当時の区長会メンバーと旅行に行っ
て親交を深めた話など様々な話を聞かせていただいた。三浦家のルーツが加子母の小郷にあったこともこの時初めて知り不思議な縁を感じたそう
だ。

お話を伺う中でどのエピソードの中でも強く感じたのは『加子母の人々の温かさ』であった。三浦さんは『加子母の人々の温かさには本当に癒された』と語られる。

平成から令和となり、新たな課題も山積みだ。村の形や在り方もどんどん変わる。しかし、そこに住む「人」の良さは変わらない。そんな地域を大切にしていきたいと考える20周年だ。

Field

小郷の畑から～なかよし家族 丹羽泰子



昨年の秋は残暑が続き、私は赤カブ、白カブ、大根を3度蒔き直したけど、全滅。それで10月下旬に夫がハウスに赤カブを蒔き、冬の間ゆっくり育ち、2月にはジャガイモくらいの大きさになった。3月、いよいよ収穫しようと見たら、花になってしまった!! 一旦、トウ立ちモードに入ると止められないので諦めて、花として宅配に入れています。アブラナ科のトウ立ちの花はそのままかじってもほろ苦い春の味で、おひたしや胡麻和えにととても美味しいですね



Road

エッセイ 田中浩子

時間の道

若い頃は、時間の道は常に直線的に前に伸びているイメージを持っていました。常に成長して変化して、次々に新しいことに出会う。そんな風でしょうか。

それが、いつの頃からか私にとって時間の道はグルグル周回しているように感じるようになりました。「また同じ季節を無事に通過している」という安心感と既視感があります。繰り返す同じ道を周回しているからこそ、疑問点や失敗・反省がある。だから今回通過していく道を、次に通るときのために少し整えてみる。変わらないけど、変えていくってことを繰り返すものなのかもしれません。

農業をしていると、時間の道は分かりやすく一年で一周です。一周するごとに自分の知識や知恵を深めて次年のために備える。そして一年後にその恩恵を受けて、また次年に備える。少しずつ通過しやすい道になっていく気がします。子育ての場合だと、自分が子どもの時に通った道を我が子と一緒に再度通るという感じでしょ
うか。

個人ではなくて、地域全体のことでそうかも
しれません。先人と同じ方法ではないけれど、知恵や知識を受け取って活かし状況を整える。そして次の周回にバトンを渡す。かしも通信も時間の道を整える作業の一つだったのかもしれないと、ふと思いつきました。

Note

キヅキノート 佐野智哉

保管していた板材を利用して、新たにリビング用の収納棚をつくりました。

古い板材には、もともと本棚だった時の溝やビス穴が残っています。つくるときは、その溝を隠さないといけないものだと思います。板を有効活用しようと思うとそういう訳にはいきません。思い切って目立つ方向にその溝やビス穴を向けるようつくってみました。

実際に物を入れて使ってみると、まったく溝は気にならず、しっくりきます。むしろ綺麗にしようと磨いた天板部分が色あせて、ツヤが消えてしまったように感じられます。なかなか古いものを思ったように扱うのは難しいですね。

また家を改修するとき、部屋は基本的に四角い形ですが、なるべく広くつくろうと思うと凸凹ができてしまう場合もあります。綺麗な面では思わないけれど、変な凸凹や溝はそれを何か上手に使えないかと考えるきっかけとなります。

まっすぐで平らな方がもちろんいいけれど、現状に合わせてくねくねで凸凹なもの、ちょっと寄り道をしてみたくるように、特徴的で愛着が持てるのかもしれない。



Event

第25回明治座クラシックコンサート

4月12日(土) 17:00開演・4月13日(日) 13:00開演
一般:3,000円 高校生以下:1,000円



Editor's Note

編集後記／秦雅文

20年前に加子母村が中津川市に合併したのに伴って創刊した『かしも通信』ですが、こんなに続けられるとは当初は予想もできませんでした。

かしも通信というだけで、知らない方に話を聞くことができたり、何かしようと思うと自然と仲間が集まりました。自ら動く人が周りにいたことで特別な経験が沢山できたことに感謝です。

27年前、加子母に来た頃、当時加子母村の村長だった粥川眞策さんが「ライフスタイルが変化して歴史や自然を村人自身が体感できなくなってきた。だから村外から刺激を入れて、都会の人と交流して村人にもう一度、ここだけが持つ良さを再認識してもらいたい。そのためにあんたに来てもらったんや」と言われました。

そんな役割は果たすことはできていませんが、かしも通信で様々な事にトライしたことで、貴重な経験を積むことができました。

でもこれからの加子母はもっと大変です。人口減少・高齢化・気候変動は容赦無く襲ってきます。日本全国で起こる問題ですから同様の小さな集落は無くなるところも出てくるでしょう。

残るとすればその地だけの特色を活かして魅力を発信していける所だと思います。

かしも通信をどうしていくのがいいか、200号を超えたあたりから考えだし、コロナ禍もあり、そこから3年以上踏ん張っていましたが、もう待ったなしです。自分が魅力を感じるクラコンや地歌舞伎に絞って伝えていくことが、かしも通信を続けることより大切に思えるようになりました。

なので、地歌舞伎は加子母で私が最も魅力を感じるものだから、同じく魅力を感じる人が集まることを願って!

JI-KABUKI ボッドキャスト、まもなく始動。

Cooking

かしも食堂 福井三月

昔から伝わる絶品料理を紹介! 色には文化があらわれる

煮なます

94歳のSさんが煮なますを作って持って来てくれた。酢がよく効いて絶品。かしも食堂を開店したころ、Sさんと煮なますの話をしていた。東白川生まれで子供の時からよく食べていたそう。私は加子母へ来てから長野県からお嫁に来たおばあちゃんに習った。美味しい。100年続く味です。かしも通信最終号の記念料理です。野菜を一杯作り手間をかけた田舎料理が100年続くことを願います。

材料

大根、人参、蓮根、油あげ、昆布

作り方

- ①大根と人参を短冊切りにして茹でる。
- ②油で材料を炒め、酢、砂糖、塩等で炒め煮をする。



Special Thanks

『かしも通信』休刊のお知らせ

日頃より広報誌『かしも通信』をご愛読いただき、誠にありがとうございます。このたび、『かしも通信』は20年間にわたる発行を続けてまいりましたが、諸般の事情により、2025年4月号をもちまして休刊させていただくこととなりました。これまで本誌を通じて、地域のさまざまな情報をお届けし、皆さまとともに歩んでこられたことを大変光栄に思います。発行に際しましては、多くの方々から温かいご支援やご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。これまでのご愛読とご支援に改めて御礼申し上げますとともに、皆さまのますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

2025年3月 かしも通信編集部

Child of Kashimo

かしもっ子だよ全員集合!



加子母中学校

感謝のあふれる卒業式

3月7日(金)は第78回加子母中学校卒業証書授与式が行われました。快晴の中、多くの来賓の方、保護者や教職員に見守られ14名の生徒が巣立つことができました。思い返せば卒業生は入学当初からコロナ禍の影響で思うように生活することができませんでした。肩を組んで喜び合ったり、しゃべりながら楽しく給食を食べたりすることもできず、マスクをしないと何となく落ち着かない日常を送ってきました。規制が緩和され、「マスクをつけなくて登校してもよいです」となった朝、「これまでよく頑張ったね」と声を掛けた時に返してくれた生徒たちの笑顔が本当に素敵で忘れることができません。

コロナ禍の影響は悪いことばかりではありませんでした。予測困難な未来を身をもって経験した中学生は、日常の大切さを改めて認識し、生活をより大切にするようになりました。また、世の中は自分たちの手で変えられる、変えなければならないと強く自覚するようになりました。生徒会は「創造」という合言葉をづくり、学校生活をより充実させようと様々な企画や仕組みを創りました。ロング昼休み、加中カップ、全校合唱等、どの取組も全校一人一人の意欲や気持ちを大切にしました。今は自分の半径10メートルくらいしか変えられないかもしれませんが、これらの経験の積み重ねは、きっと新しい世の中を創っていくことでしょう。

これまで地域の皆様に支え見守っていただき有難うございました。新年度の加中生の活躍も期待していきましょう。



加子母小学校

感謝の気持ちを込めて「6年生を送る会」

5年生が中心となって、進めてきた、「6年生を送る会」が開催されました。「6年生に感謝の気持ちを込めてみんなで楽しく最高の思い出をつくろう」と、どの学年も色々な形で練習をしてきました。各学年からの発表は、様々な工夫があり、気持ちのこもった贈り物になりました。全校からは歌のプレゼント。「エール」。在校生の素敵な合唱からは、6年生にエールを送るとともに、自分たちがこれから、加子母小学校をさらに良いものにしていくからねという決意を感じました。6年生からは、お礼として、各クラスの良さを寸劇とプレゼンを使って紹介してくれました。さらに、賞をプレゼントしてくれました。

とても、心温まる素敵な会になりました。



加子母こども園

今年度、最後の交通安全教室

3月3日(金)は今年最後の交通安全教室でした。

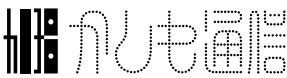
未満児から年中組はホールで交通安全について1年間の振り返りを行いました。春から1年生になる年長組は、指導員さんと一緒に実際に路上を歩いて交通安全について学ぶ予定でしたが、あいにくの雨になってしまいました。その為、保育室で1年間の交通安全の振り返りと道路を歩く時に注意すること等の確認をしました。

年長になるまで何回も学んできた子ども達。指導員さんの質問やクイズにもよく答えられました。園では保護者の方の送迎がほとんどなので、これから登下校などで歩道を歩く機会が増えることと思います。事故や怪我に気を付けて、元気に小学校へ通って欲しいと思います。



【加子母・付知子育て支援センター くるりんぱ】

自由にあそべるスペースです。体を動かしたり、季節を感じるイベントも行っています。カレンダーやイベントの詳細はLINEまたはインスタをチェックしてくださいね!! インスタは「くるりんぱ」で検索をお願いします。



2025年3月25日発行 No.240

Publisher Hara Yuumi
Editor in Chief Hata Masafumi
Deputy Editor Honma Kiyoko
Editors Tanaka Hiroko
Sato Yoko
Sano Tomoya
Fukui Yayoi
Ichihashi Yusa
Fukui Rie
Taguchi Sachiko
Niwa Junichi
Correspondent Zenda Nao
Illustrator Honma Kiyoko

小郷 けいちゃんの

こざと

お持ち帰りも好評です!

Tel: 79-3618
(サブロクジュウハチ)
定休日 月・火曜日



ニワデン

(一財) 岐阜県消防設備協会会員

消火器の点検、販売、
廃棄処分ご相談ください。
悪質な消火器の
訪問販売にご注意を!

Tel. 79-2285



4月の行事予定		
1	火	【小・中学校】学年始休業日(～6日)
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	乳幼児個別相談(付知福祉センター) 【こども園】始業式・入園式 【小学校】始業式 【中学校】着任式・始業式
8	火	区長会初顔合わせ(15～) ワンコインコンサート(ふれあいのやかたかしも) 【こども園】家庭訪問 【小学校】入学式 【中学校】入学式
9	水	農事改良組合長会初顔合わせ会(19:30～) 1歳6か月児健診(福岡保健センター) 【こども園】家庭訪問 【小学校】交通安全教室(1、2年11:30下校) 【中学校】1年生交通安全教室
10	木	【こども園】家庭訪問
11	金	子どもたちのためのクラシックコンサート(明治座) 【こども園】家庭訪問
12	土	明治座クラシックコンサート(明治座)
13	日	大型ごみ(9～13) 明治座クラシックコンサート(明治座)
14	月	狂犬病予防注射(9:20～13:45)
15	火	人権相談(13～15) 2歳児相談(付知福祉センター) 【中学校】全国学力学習状況調査(理科・質問調査) 【中学校】PTA本部役員会
16	水	
17	木	【小学校】6年生全国学力・学習状況調査 【中学校】全国学力学習状況調査(国語・数学)
18	金	
19	土	
20	日	不燃・硬質・資源ごみ(17～18) 家庭の日
21	月	
22	火	農事改良組合長会(19:30～)
23	水	3か月児健診(福岡保健センター)
24	木	
25	金	区長会
26	土	【小・中学校】授業参観・学級懇談会・PTA総会
27	日	
28	月	【小・中学校】振替休業日
29	火	昭和の日
30	水	

こちら総合事務所です

このページでは、加子母総合事務所からみなさんへ、地域に密着した情報をお知らせします。
みなさんの身近な地域情報をお寄せ下さい。(加子母総合事務所:0573-79-2111まで)

住所変更等の休日窓口を市役所本庁舎で開設します

住所変更の手続きが集中する年度末、年度初めにあたり、下記のとおり休日窓口を開設します。業務内容によっては他の自治体や関連機関の休みにより、受付できない場合がありますのでご承知下さい。

■日時 3月30日(日)、4月6日(日) 8:30～17:15

■場所 中津川市役所本庁舎1階 市民保険課 (※庁舎への出入りは本庁舎の正面玄関のみ)
※平日は17:15～18:15まで、市民保険課戸籍住民係の窓口を延長していますのでご利用ください。

【休日窓口の取扱事務】

取扱事務	開設窓口
◇転入・転出・転居の手続き ◇住民票・戸籍・印鑑証明書発行及び印鑑登録 ※転入に伴う住民票、印鑑証明は即日発行できない場合があります ※戸籍は中津川市に本籍がある方のみ発行できます ◇マイナンバーカードの交付及び電子証明書の発行 ※WEB予約制(市ホームページから事前にご予約ください) ※マイナンバーカードの暗証番号再設定は取扱いできません	戸籍住民係
◇国民健康保険・後期高齢者医療保険に関する手続き ※手続きに必要となるものは、事前にお問い合わせください。	保険年金係

※旅券(パスポート)、国民年金の諸手続きは取扱いできません。

※各種手続きには、届出をする方の本人確認が出来るもの(運転免許証など)、マイナンバー(個人番号)がわかるもの(マイナンバーカードなど)をご持参ください。

【お問合せ】中津川市役所0573-66-1111戸籍住民係(内線103、199)、保険年金係(内線112、113、114)

「令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金」募金箱を設置しました

2月26日に発生した岩手県大船渡市赤崎町の林野火災により被災された方を支援するため、中津川市では義援金を受け付けています。

■期限 令和7年6月30日(月)まで

■場所 加子母総合事務所

図書室だより

【4月おすすめ図書】

■ゆびさきに魔法 著:三浦しおん

月島美佐はネイルサロン「月と星」を営むネイリスト。巻き爪に苦しむ居酒屋の大将、自分をメンテナンスする暇もなくストレスを抱えるママ、ネイル愛を大っぴらにはできない国民的男優…。月島のもとには今日も様々なお客様がやって来る。胸温まるお仕事小説。

■ドンキはみんな好き勝手に働いたら2兆円企業になりました 著:森谷健史

新型コロナウイルス禍などものともせず、35期連続増収という猛烈な成長を続ける総合ディスカウント店「ドン・キホーテ」。アタマでは理解できても、恐らく決してまねすることのできないこの「ヘンなカイシャ」の実態を赤裸々に綴る。

■こんな話知っとんさる?おもしろ岐阜学入門 著:神田卓朗

とてもユニークで面白い「乞食祭り」、初めて耳にするような「ごもっもごもっも」の風習、でーれー楽しい長屋さんの話題…。歴史・文化・サブカルチャーなど、様々な角度から岐阜の素顔に迫る岐阜学入門本です。

■おかえり、フク 著:北川チハル

山の集落に暮らすカネオさんとレイコさんの夫婦は、ある日、生まれたばかりのニホンカモシカの赤ちゃんを保護した。1歳まで育て山へ帰すことになり…。岐阜県で実際にあったお話から生まれた、野生動物と人との関わり方を問いかける、せつなくも、あたたかいお話。

加子母の人口と世帯数(令和7年3月1日現在)

世帯数:943世帯 男:1,143人 女:1,180人 計:2,323人